



続・反理沙が

木村で触手に

FOR ADULT ONLY

…どれだけの
時間が経ったのか

引きずり込まれた穴は
とつくに閉まっていた

中は薄く光る触手で
ほのかに照らされていた

やはりキノコか
コケなんかの一種なのか

そんなことを考えて
気を逸らそうとするけど

すぐに疼く身体に
意識が移ってしまう



わっ…

私の精神をいたぶるような行動

わけわかんないっ

この生物は知能が高い上に

こんなカッコ
させてっ

なに、もっ



くっ…

手足に巻きついた触手が
蠢くだけで大きな快感が走る

この…っ



だけど決して
大きな刺激ではなく

思えば地上での
私への行為

もどかしい感覚が
蓄積するだけだった

私を捕える
ためのあの罠



なかなか嗜虐的な
性格をしていたわけだ

ん

あ

ズリッ

ズル



大切な部分を

はっかー！

おっあ

ズルル

はっか



そんな私の身体に無遠慮に

はっ

かあ？

はっ

おっあ



啜え込まれ

おっあ

はっか

はっ

はっ



摘まれ

はっ

おっあ

はっ



拘束され抵抗できない身体に

容赦なく快感が
刻まれてゆき

はっか

ズルル

おっあ

ズルル



流し込まれる

おっ!!

どろろ



得体のしれない液体を

どろろ

どろろ



私に堪える術などなく

敏感になっている身体は

あぁあぁあぁ

どろろ

どろろ



地上で飲まされた液体より遥かに臭く粘り気あるソレが口、食道を満たし

どろろ

あはは



その間も触手は敏感な部分を責め立てる

あはは

あはは

あはは



前だけでは飽きたらないのか

触手が私のお尻を拵げだし

何拵げ

この...

ググ

やめ



そっちは...

うじじ?!



おし...

ググ

ググ

ググ

ググ



冗談だろっ?!

じよっ

ギチ

それっ

そんなの入っ...

ギチ



そこに芋虫のような歪な別の触手が近づいてくる

ひっ...

なっ...



入るわ...けぎっ...

いつ...

ググ

裂けかねないような太さの
触手だというのに私の身体は
不思議と受け入れていく

体内に侵入されている恐怖感で
歯の根が合わない

圧迫感による嘔吐感と排泄感
慣れないお尻からの快楽

疣と贅が腸内を
乱暴に駆け巡りながら

多量な体液を腸内に
まき散らしていく





突き刺さった針から何かを注入される

痛みで胸が焼けるように熱い



痛っ



なぜこんな所に
来てしまったのか

どうしてこんな目に
遭うのか

不快感と痛みと
快感を叩きつけられながら

私にはそんなことを
考えることしか
出来なかった



この時やっと私は

自分の体がこの生物の
なにかしらの目的のために
改造されていると悟った



半刻かそこらだろろうか

陵辱していた触手が離れていく



東の間

刺激からの開放に安堵したのも

お、おわり...?





失禁するほどの耐え難い快感に腰が跳ねる

腹の底から熱が湧き上がり



そこに形容しがたい姿の
バケモノが足元から這い上がり



背中から私の身体に巻き付き胴体を拘束していく





貫かれた

あああ

びび

貫

あああああ

い

ギギ

ニギリ

は

は

かん

は

びび

かん



普通なら裂けるとしか
思えない太さの触手が

乱暴に秘裂をかき回していく





さつき針を刺され
注入された
液体のせいかな

触手に搾られた
胸から
母乳が噴き出し



水かきの
大きな触手が



私の胸を締め上げ

っ…強く…

母乳を絞りあげよう
としてくる

しぼっちゃ…

あぁあぁあぁ

ギリ

ギョ

うううう

あぁあぁ





そこに容赦なく
大量の液体が注がれる



尋常でない量の白濁した液体が



冗談ではない勢いで注がれていく

体中の穴に



あつけなく触手たちに
押しさえつけられてしまう



なけなしの力で
暴れてみても

半狂乱になり



声にならない声で許しや
助けを乞うても意味はなく

がんにがらめにされ更に注がれる白濁液

急速に膨れていく自分のお腹を
絶望と共に見るこゝろしか出来なかつた



明滅する意識の中で

無慈悲に弄り壊されていく
自分の身体を見つめながら

数刻前までの日常へ戻って欲しいと

これが夢であって欲しいと

ひたすら乞い願い続けた

ギチ

おぐらう...

ギチ...

ぐんぐんあぁあぁ!!

ぐんぐんあぁあぁ!!

ギチッ

かほっ

ふい...

ドッ

ぐ...

おぐらう...

ボッ...

ぐ

ゴッ

ア

ドロ...



そして胎内で蠢く
妖しげな感覚のみだった

曇りゆく意識の中で

せめて悪夢が早く終わるよう
祈りながらも

更にどうしようもない所へ
落とされていこうとしているのを

私は感じざるを得なかった



魔理沙が森で触手に・三(仮)

鋭意製作中

あとがき

砂(s73d)です。

本作はコミケ終了後あたりに結構余裕こいて描き始めた記憶がありますが塗りの試行錯誤や鉛筆による線画等、初挑戦な要素が多かった為かかなりギリギリまで悪戦苦闘させられました。

話も前巻の時みたいにもた一回ボツにしたりもしました。

余裕かましてゲームとかしてませんよ シテマセン。GTA5楽しみ。

この本の製作中色々と案が浮かんだり頂いたりしたんで

今後は様々なシチュエーションなんかを描いて行きたいですね。

Aftermath楽しいです

奥付

発行日：20121230

発行：砂亭(s73d)

連絡先：s7ch3d@yahho.co.jp

原作：上海アリス幻楽団 様



砂亭

FOR ADULT ONLY